

体育系単科大学におけるタブレット必携化

A Case Study of Bring Your Own Device in Sports University

和田 智仁^{*1}, 高橋 仁大^{*1}, 中村 勇^{*1}
Tomohito WADA^{*1}, Hiroo TAKAHASHI^{*1}, Isamu NAKAMURA^{*1}
^{*1} 鹿屋体育大学体育学部

^{*1}Faculty of Physical Education, National Institute of Fitness and Sports
Email: wada@nifs-k.ac.jp

あらまし：鹿屋体育大学では情報活用能力の育成とそれらを活用した指導力を養成するために、平成 27 年度新入生からタブレット型情報端末の必携化を義務付けた。

入学後 2 か月が経過した段階で調査を行った結果、学生の多くは必携化を ICT 活用の機会と前向きにとらえていたが、授業時間外の利用頻度はそれほど高い状況ではなかった。

キーワード：情報端末必携化, BYOD, タブレット

1. はじめに

鹿屋体育大学では、「体育・スポーツ及び武道の分野における情報活用能力の育成と情報通信技術を活用した実践的指導力を養成する」ことを目的に、平成 27 年度新入生からタブレット型情報端末の必携化を行っている。本稿では、導入決定に至る背景と経緯、必携化直後の学生への調査結果等について述べる。

2. 必携化の背景

近年、競技スポーツの特にレベルの高い領域においては映像の利活用など ICT の活用が急速に進行している⁽¹⁾。教育の領域では 2011 年に文部科学省が「教育の情報化ビジョン」を公表し、また現在では多くの大学において情報端末必携化などの BYOD 対策が行われている⁽²⁾など、ICT の活用が推進されている。

鹿屋体育大学においても、これまでに競技や教育活動の中で情報機器を活用する試みが数多く行われてきた。特にタブレットは、一般教室における電子教材や web の利用をはじめ、屋内外の競技場における映像の提示やフィードバックなど、様々な用途に用いられてきた⁽³⁾。

タブレットは PC と比較して可搬性と操作性に優れ、また映像の撮影と再生が容易であるなどの特徴から、特に競技スポーツでの利用や体育の学習・指導に適していると考えられており⁽⁴⁾、鹿屋体育大学におけるこれまでの取り組みの中でもその利点が確認されていたところである。

一方で、教員がタブレットを準備して授業の際に貸し出しを行うといった従来の方法にはいくつかの問題も指摘されていた。複数台の機器の準備に要する負担、貸出可能台数による制限、授業中に撮影・生成したデータの共有などといった点である。これらは学生自身が個人で所有する端末を使うようにすれば問題を解消できる。また、体育・スポーツの教育や指導に ICT を活用し得る能力を養成するには、

学生自身が機器の管理を行いながら、普段の学習や競技活動の中でそれらの機器を活用することが重要であると考えた。

3. 必携化に関わる検討の過程

情報端末の必携化に関して組織的な検討が始められたのは平成 25 年度末からであった。まず FD 推進専門委員会において授業改善、e-Learning 活用といった文脈から、タブレットを念頭に置いた情報機器の必携化が検討された。26 年 4 月には全教員を対象とした情報機器必携化に関する調査を行った。この調査の結果、全体の 8 割が必携化への関心を示すとともに、タブレット必携化については 7 割弱が賛成という結果であった。必携化する機器としても、タブレットが 5 割強、PC が 1 割弱となり、PC よりタブレットが支持された。個別の意見では、実技系の科目などでの動画の活用が期待される一方で、学生の金銭的負担の増加や、授業中の集中が阻害されるといった点などが問題点として挙げられた。タブレット利用に関する説明や、講習会の開催を求める声も寄せられたため、6 月には「情報端末の必携化」をテーマとした FD 研修会を開催した。研修会では、他教育機関等における傾向や現状の説明、タブレット活用事例の紹介、必携化に関する意見交換などを行った。この研修会には教員のおよそ 6 割が参加し、活発な議論からも必携化への関心の高さを示す結果となった。

これらの FD 推進専門委員会での検討を経て 7 月には、教務委員会における必携化の検討が始まった。ここでは機器の利用に関する学内の支援体制、無線 LAN 環境の整備計画、購入困難者への対応などが検討された。また、学生のほぼ全員が 1 年前期に履修している情報基礎科目「情報処理 A」において、タブレットの設定や解説を行うことも確認された。これらを経て 11 月には機器の仕様も含めた必携化の実施が了承された。

4. 必携化導入後の状況

入学予定者への通知は、入学案内等に同封する形で行われた。通知後の問い合わせについては機器の仕様に関するものなど数件があったのみであった。問い合わせへの回答をまとめるとともに、関連の情報を広く提供するため新たに Web サイトを設けることとした⁽⁵⁾。

平成 27 年度新入生のほとんどはこの案内に従って入学前にタブレットを準備していたため、1 週目の授業時には授業時にタブレットの設定に関する説明を行うことができた。新入生 181 名中、購入困難による機器の長期貸与を希望したものは 2 名であった。学生の所有する機種種の 96%は大学の仕様を満たすものであり、このほとんどが入学に際して新たに購入されたものであった。

前期開講の情報処理 A の授業において、無線 LAN、メールアドレスの設定、関連するアプリの利用などについて解説を行っている。この授業の内容についても前述のサイトで随時情報を公開している。

5. 学生の利用状況と評価

入学後約 2 か月が経過した段階で、タブレットの利用状況などに関する調査を実施した。調査は情報処理 A の授業中に LMS のアンケート機能を用いて実施した。有効回答数は 164 であった。

タブレット購入に関する金銭的な負担感について最も当てはまるものを一つ選んでもらったところ、「負担が大きい仕方がない」41%、「親が購入したのでわからない」25%、「許容範囲である」15%、「あまり問題はない」12%、「負担が大きく、やめてほしい」8%という結果となった。

タブレットを普段持ち歩いているかを訪ねたところ、「ほぼ毎日」が 52%、「週 2,3 日」が 10%、「必要な時のみ」が 38%であった。

情報処理 A を除き授業中に教員の指示でタブレットを使用している科目を尋ねたところ、一般教室での幾つかの授業科目に加え、語学、実技科目も挙げられた。

放課後などの授業以外の時間でのタブレット使用頻度について目的別に尋ねたところ、2 割以上の学生が普段「ほとんど使わない」と回答した（図 1）。

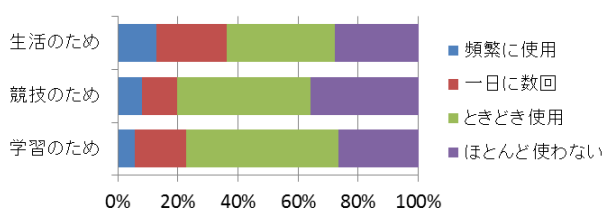


図 1 授業以外での使用頻度

アプリケーション別の使用頻度を尋ねたところ、授業に関連した用途である LMS に続いて、動画閲覧、ゲームと続く結果となった（図 2）。

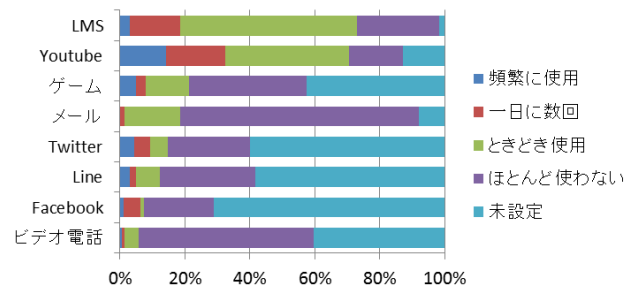


図 2 アプリケーション別使用頻度

パソコンとタブレットとを比較して必携化にどちらが適切だったと考えるか尋ねたところ、「タブレット」が 40%、「どちらでもよい」が 31%、「PC」が 22%という結果となった。

「タブレットを所有して、総合的にどのように感じているか」を尋ねたところ、「ややよかった」42%、「とてもよかった」24%、「どちらでもない」21%、「判断できない」7%、「あまりよくなかった」3%、「よくなかった」3%という結果であった。

自由記述によりタブレット必携化に関する意見や感想を求めたところ、「よかった」「便利である」「活用したい」といった肯定的な意見が多く得られた一方で、「使い方がわからない」「PCの方がよかった」「必携化した割には利用する科目が少ない」といった意見も見られた。

6. 今後の課題

調査の結果から、多くの学生がタブレット必携化を ICT 活用の機会と前向きにとらえていることが確認できた。一方で、授業外の時間ではタブレットが活発に利用されている状況になく、そのためタブレットをどのようにツールとして活用していけばよいイメージを持っていない学生については、授業で期待していたほどの使われ方を直接的に要求されない点も含め、不満を感じていると推察できる。

今後もタブレットの活用方法などを様々な方法で学生に伝えていくことが重要であると考えられる。同時に、授業を実施する側への活用事例の提案や支援活動が今後より重要になると考えられる。

参考文献

- (1) 三浦智和：“トップスポーツでの映像システム活用”，情報処理 Vol.55, No.11, (2014)
- (2) 九州大学：“コミュニティで紡ぐ次世代大学 ICT 環境としてのアカデミッククラウド成果報告書”，http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/docs/ac/ac_report.pdf (2014)
- (3) スポーツ情報センター：“特集：体育・スポーツにおけるタブレット端末の活用”，鹿屋体育大学スポーツ情報センター広報第 5 号，<http://itec.nifs-k.ac.jp/bulletin/2014.pdf> (2014)
- (4) 市河大，他：：“体育におけるタブレット型情報端末 (iPad) の可能性”，教材学研究, Vol. 23, pp.311-318 (2012)
- (5) スポーツ情報センター：“タブレット必携化”，<http://itec.nifs-k.ac.jp/tablet/>